



# 創立百十周年に向けて

## 旭陵太陽光発電所完成・稼働中



発行者  
岐阜県立中津高等学校  
同窓会

題字は田中栄吉学校長  
タイトルバック 斉藤みえ子  
(中津川市在住・18年生)



中日新聞・岐阜県版に取り上げられた

太陽の光を受け、電力を生み出す太陽光発電パネル。その黒く輝くパネルが一九八枚並ぶ姿はなかなか壮観である。

中津高校同窓会では一〇周年記念事業として太陽光発電所の設置を行い、旭陵太陽光発電所と名付け、平成二十五年六月十日より稼働している。年間予想発電量は約四万九千kWh、年間の売電収益は約二百万円を見込んでいる。災害時には中津川市に非常用電源として提供する契約で市有地を借用した。

中津高校同窓会では創立一〇〇周年以来、日本の将来を背負って立つ人材を育てるために旭陵留学生の派遣を行ってきた。現在留学

中の二名を含めて三十七名の留学生を派遣してきた。今までは多くの方々の寄付によってこの事業を続けてきたが、今後資金面で制度の維持継続が難しいものとなる状況が予測される。この旭陵留学奨学金制度を今後も続けていくためには、資金の確保が急務となる。そこで、資金の確保を行うためにこの太陽光発電所を設置したのである。

今後十年、二十年と旭陵留学制度を、太陽光発電の収益でまかなっていくことは、単に資金の確保だけでなく、次世代の自然エネルギーによって次世代を背負って立つ人材を育成するところに大きな意義がある。環境を考えた取組

こうした取組の中でも、校訓校是は生徒達がこの中津高校に学ぶことの意義、拠り所となるものとしていきたい。現在「自由と個人の尊厳」という校歌の一節を何かの折には掲げているが、これは中津高校の教育のあるべき姿を言い表したもので、この中津高校に学ぶ生徒達の拠り所、意義とは若干違つところがあるとのことから、この一〇周年を機会に生徒のための校訓・校是を制定したい。

学校というものは在校生保護者、同窓生、教職員がみんな力を合わせてがんばらないと発展向上していかないものである。今後も皆様方の温かいご支援・ご協力をお願いしたい。

（文責 松本 詠史 30年生）



記者の取材を受ける、田中校長と佐藤定時制同窓会長



左から日下部PTA会長 三尾同窓会会長 中津川市長 田中中津高校長 杉本同窓会副会長



交響詩「中津川」作曲者の池辺晋一郎氏と、指揮者の佐藤功太郎氏、名フィル（2005年10月中津川文化会館にて初演）



中津高校吹奏楽部と旭ヶ丘吹奏楽団 (OB) (2013年9月 オータムコンサート)

中津高等学校一〇〇周年記念事業として、日本を代表する作曲家、池辺晋一郎氏に委嘱された交響詩「中津川」。初演以降演奏される機会がほとんどありませんでしたが、一〇周年にあたり、池辺氏ご自身の吹奏楽編曲版を中津高校吹奏楽部OB楽団「旭ヶ丘吹奏楽団」と、現役吹奏楽部員で記念演奏会を開催する計画が進められています。期日は未定ですが楽しみにしてください。

つきましては、演奏者を募集しています。吹奏楽部のOBに限らず、中津高校同窓生から広く募集します。この貴重な機会に是非とも壮大な交響詩「中津川」自由と個人の尊厳を一緒に演奏しましょう。

尚、お申し込み、お問い合わせ先は、現吹奏楽部顧問高橋です。

（文責 高橋 俊和 32年生）

創立110周年記念 第4回  
同窓生・在校生・旧職員・現職員による

# 芸術展

写真は100周年記念「芸術展」

80周年、90周年、100周年に続き、110周年記念事業の一環として芸術展を開催致します。力作をお待ちしています。詳細は次号にて

同窓生・在校生・旧職員・現職員による  
心の大交流会

# 創立110周年記念 合同同窓会

写真は100周年記念「合同同窓会」

大好評だった100周年記念「合同同窓会」に続いての開催です。開催詳細につきましては次号にて案内致します。

■日時 平成二十七年十一月七日～八日  
■会場 中津高校体育館 他

- 記念式典 ●記念品作成
- 太陽光発電所
- 校訓の制定
- 記念誌発刊
- 芸術展開催
- 旭陵留学生の講演会
- 旭陵ゴルフコンペ
- 合同同窓会
- 交響詩「中津川」再演奏会

創立110周年記念  
**旭陵ゴルフコンペ**  
開催ことに女性の参加者も増えてきました。多くの同窓生の参加をお待ちしています

創立110周年記念  
**旭陵留学生の講演会**  
100周年記念事業としてはじまった「旭陵留学制度」は多くの学生を海外へ送り出し、大きな成果を生み出そうとしています。留学生の中から数人に来て頂き、留学の意義、留学の思い出などを語って頂きます。

# 創立百十周年記念事業

# 中津高のいま



「中津高のいま」に  
写真を提供してくれた方々  
①④…中津高・吉田浩之先生  
②⑤…中津高・田中聡和先生  
⑦…中津高・岡本春信先生  
⑩⑪…中津高・田中栄吉校長  
⑤⑥⑨⑩…山田節子(27回)  
③④⑧⑬…阿部武東(14回)

最近になって苗木城は急に世に知られるようになりまし  
た。暮れと昨春、二度NHK  
ウィークエンド中部で苗木城  
が放映紹介され、重ねて昨年一  
月刊「週刊 日本の城」の  
TV放映CMで苗木城のCG  
(コンピュータグラフィック  
映像が強い印象を与えました  
(このCGは中津高校23回生浅  
野孝司さん作成)。また苗木遠  
山史料館からもネットへ紹介  
映像を届けることができるよ  
うになりました。今、ネットで  
全国の城を検索すると、大阪城  
が検索数トップで苗木城第二



位というびっくりするような  
状況になっています。  
加えて、十月に発表されたリ  
ニア中津川駅に近く、「リニア  
が見える丘公園構想も語られ  
ますが、まさに苗木城跡がその  
丘にあたるでしょう。  
巨岩群が盛り上がり(高森↑  
高盛)その間を石垣で経路や住  
居を「かけ造り」に広げ築いた  
苦勞がにじみます。正面には  
中津川市街と恵那山が見られ  
眼下に木曾川の本流を見る、文  
句なしの絶景です。  
これまでは全国から山城を  
巡るマニアの方がみえるこ

も全国的に少なく珍しい例で  
す。このため、史料館近くの御  
霊屋墓地には江戸初めから明治  
初めまで、遠山家と家臣の墓が  
立ち並び、しかも雲林寺過去帳  
が史料館に保存され(依頼あれ  
ば調査員が調べる)、家臣のルー  
ツを確認するに絶好の条件と  
なります。  
かつて苗木藩士だったと祖父  
母から聞いていた人たちが退職  
してルーツを確認に来たと、こ  
の夏も幾組も見えました。一緒  
に調べると、正史には出てこな  
い色々な事実がわかってきて  
それが苗木の歴史を豊かにさせ  
ます。  
城山に平成二年に設立された  
苗木遠山史料館は、遠山家の資  
料を中心に苗木を調べる文書の  
宝庫となっています。城山共々  
ご来館ください。



中津高生の城山見学 (昨年9月)

## 中津高校同窓会所有作品 前田青邨作 袈裟御前



袈裟御前は、平安後期の北面の武士源渡の妻です。  
『源平盛衰記』には、その美しさと情の深さが言葉を尽  
くして語られています。  
袈裟は、従兄弟にあたる遠藤盛遠から強引に懸想さ  
れ、夫の身代わりとなって殺されました。  
恋に狂った盛遠が夫を殺しに来る晩、死を決意した  
袈裟御前が、髪を切り夫になりすます仕度をしている  
ところを描いています。  
緊張した袈裟御前の様子とは対照的に、画中の屏  
風絵には牛車行列とそれを見物する人々が生き生き  
と描かれ、若き日の青邨が、菊地容斎(1788~1878)の  
『前賢故実』などの古画を模写研究した成果を見てと  
ることが出来ます。  
青邨は、後に次のように述べています。「私は『前賢故  
実』の面白味など判らう筈もない時代だったので、ただ  
夢中でそれを写したものだっただけだ。」  
ちなみに、袈裟を斬ったことに気づいた盛遠は、深  
い慚愧の念から発心出家し、文覚と名を改めています。  
明治二十五年(一九〇二年)制作  
絹本着色  
縦82.7cm / 横109.2cm  
中津川市青邨記念館による  
解説を転載致しました。  
現在、作品は苗木遠山史料館に保管されています。

## ふるさと便り 「苗木城」

千早 保之(旧職員)

# 『旭陵留学制度に期待する思い』

中津高等学校同窓会会長

三尾 義彦(12回生)



中津高校の旭陵留学制度は、創立一〇〇周年の記念事業として今から九年前に始まり、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア等に留学した生徒は三十七名になりました。この全国初めての制度により、中津高校は全国から注目され、国もグローバル人材育成の為に留学資金を援助する様になってきました。我が校にとっても、この制度により

優秀な人材の入学希望者が増え、英語力も格段と向上してきました。留学生の貴重な体験や活躍は、我々の生徒にも大変良い影響を与えていると聞いております。留学生の報告と活動本人達の人生に対する自覚と前向きな姿勢は、期待以上であります。

更に、本校は恵那北高校と合併をし、単位制普通高校として新しい道を歩んでいます。部活動も野球部が硬式となり、最近では近い将来甲子園も夢ではないレベルになってきております。文武両道、国公立への入学率も年々増えており、我が校への入学希望者も定員以上であります。



平成25年8月 太陽光発電パネル前

- 昨年の六月には、中津川市から土地を無償で借り受けることができ、五十kwの旭陵太陽光発電所を建設しました。この売電収入(約年間二〇〇万円)により、毎年二名の生徒を二年間海外留学生として送り出すことができます。その費用は、同窓会とPTAの預金から用立てていただきました。関係者の皆様のご理解とご協力に感謝致します。
- 旭陵太陽光発電所
  - 中津高を象徴・表現することば、校訓などの制定
  - 記念誌
  - 旭陵留学生達の講演会
  - 旭陵ゴルフ大会
  - 合同同窓会
  - 芸術展
  - 交響詩「中津川」再演奏会 等を企画しております。そこで本年四月より一口三、〇〇〇円の寄付金を募集させていただきますので、何卒ご協力をお願い致します。

## 中津高校校歌考



中津高等学校同窓生の皆様には、日頃より母校発展のためご支援、ご協力を頂き誠に有り難うございます。平成二十四年四月より野村一高前校長の後任として赴任しました田中栄吉と申します。平成二十二年に教頭として中津高校に勤務しました。生まれも育ちも中津川市蛭川私自身は本校同窓生ではありませんが、中津高校では丹羽肇元校長以来久方ぶりの地元出身であり、間もなく創立一〇〇周年となる歴史と伝統を誇る本校で勤めることが出来る幸せに感謝し、本校及び同窓会発展の為に出来る限りの努力をしたいと思ひ勤務してまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

共有の為に、平素は二年に一度の発行とお聞きしていますが、学校としては現在の学校の様子を同窓生の皆さんに広くお伝え出来る貴重な機会と考えて、お手伝いできる部分では惜しまず情報提供していきたいと存じます。

さて、「旭陵」原稿に何を考へていたところ、校歌について最近貴重な資料提供の申出も御座いましたので、お知らせしたい情報も交え、校歌について思う事を記すことと致しました。

何分、浅学非才に加え、多感な時期に歌った者ではない故の非礼も有るのではないかと危惧もしますが、間違いやご意見、その他お教え頂く事の端緒になれば有難いと存じます。

皆さんご承知のように、中津高校には「高鳴るや黎明の鐘、自由と個人の尊厳」と歌われる現校歌と、「恵那山空に響ゆるは」と歌い出される昭和五年制定の中津高等女学校校歌、更に明治四十一年に校友会歌として歌い始められ、その後事実上の校歌として歌われた古歌の併せて三曲があります。

「旭陵一〇〇年」によれば現校歌は、跡見学園短大教授であった伊藤嘉夫氏に作詞を依頼し、当時の手島校長と岐阜師範学校教員時代の同僚であった河野信一氏に作曲が依頼され、総合高校となった前年の昭和二十五年七月中旬に完成したと記されています。更に、伊藤嘉夫氏については岐阜県出身、林古溪、佐々木信綱の知遇を受け、代表的著書として『西行法師全歌集』があり、また多くの学校の校歌を作詞したと記載されています。

作詞した校歌で関わったものとしては、今も跡見学園中高の生徒会歌として歌い継がれる、泉の歌、跡見学園大学歌、紫の一本と、近くでは七宗町立神淵中学校校歌などがあるようです。

さて、現校歌が作られた昭和二十五年の出来事を紐解くと、三月一日自由党結成、三月二十四日旧制高校最後の卒業式、四月十五日公職選挙法公布、六月四日第二回参議院議員選挙、六月六日住宅金融公庫発足、六月二十五日朝鮮戦争始まる、七月十日初渡米留学生六三名出発とあります。

一方、中津高校では前年の七月と九月に相次いだ火災から校舎が復興し、二十五年四月落成式が盛大に行われ校舎が供用されました。このように内外とも混乱が少し落ち着き始めた中で校歌制定の議がなされました。

話は作曲者に移して、旭陵七十年史によれば、校歌作曲者の河野信一先生は岐阜師範学校、岐阜大学学芸学部で長年教鞭を取られていたようですが、旧知の仲である手島校長からの依頼とあつて他校からの依頼を後回しにして本校分に専念されたとあります。歌詞の語調が不定であり、語数が多く随分にご苦労され、「恵那山は響つ」とあつたものを「恵那山響つ」と国語専攻の教授に相談されたうえ、伊藤嘉夫氏にも了解されて変更されたこと等が七十年誌に紹介されています。

同誌には曲が完成して本校へわざわざ来校して熱心に指導して下さった記事もありますが、その時の音楽担当者である、高橋照子先生により、たまたまそのやり取りした手紙があり是非見て欲しいと言つてご連絡を頂きましたので、ひとまずお預かりして写真に収め、手紙の内容を

読んでみました。

手紙の一部が楽譜の陰に隠れていますが、七十年史に記述の事が手紙に確かであると同時に山田耕筈先生に見て頂いたという記述もあり、これまでの記念誌では記述されていない新しい発見と思ひ今回の記事としました。

校歌は昭和二十五(一九五〇)年に生まれましたので、一〇〇周年の年は校歌制定六十五年目となります。先にも述べたように太平洋戦争が終わり、まだGHQ統治下ではありましたが、漸く戦争の混乱から少し抜け出たころでしょうか、それでも様々な改革の指示や命令をGHQが出していた頃です。朝鮮半島に不安な空気が流れ、ついに朝鮮戦争が起きた頃、校歌は完成しました。

このような時代背景をもって出来た校歌であつたので、高鳴るや黎明の鐘と夜明けを祝福する出だしに続き、「自由と個人の尊厳」と息苦しい国家主義的思想から解放された個々人の尊厳を歌つたのでしょうか。

中津高等学校校歌は本当に素晴らしい校歌です。歌詞と曲がマッチして歌うと元気になる

(内感されている現実だったのです。日本企業が世界の適材適所で工場を建設し、企業活動をしている結果です。それら企業活躍により、多くの配当を得て日本の経常収支は黒字になっているのです。)

私を含め日本人の思考の大きな欠点は「日本基準」で世界を理解してしまうことです。これからの日本の将来の為、また中高生が活躍する為には、このような年々変化するグローバルな世界に対応できる、グローバルセンスを持つた人が必要なのです。これからは、英語が話せるだけではなく、論理的に日本語を話せ、英語で表現する力が必要なのです。

また、様々な角度から既成概念にとらわれず、物事を発想する企画力、数字を一目見て直感的に問題を見抜く能力、危険な状態からすーっと身を引く勘の良さ等が必要であります。一刻と変わり続ける環境の変化に対応すると同時に、これだけは譲れない芯とビジョンを持つことが最も重要だと思ひます。

旭陵留学制度により、上記のグローバルセンスを持った人が一人でも多く輩出される事を期待しております。同窓生の皆さん、これからの中津高校の行く末について、様々なご助言とご協力をいただきますようよろしくお願い致します。

旭陵留学奨学金に御寄付いただいた方々の御芳名  
平成二十五年旭陵留学奨学金制度募金に御協力いただいた方々のお名前を掲載させていただきます。感謝の意を表したいと思ひます。平成二十五年十二月二十日までに御協力いただいた方の御芳名を順不同にて掲載させていただきます。

- 関東OB会様
- 笠木医院 笠木徳三様
- 中津川鋼材株式会社 桂川邦彦様
- 阿部武東様
- 恵山工業 清水良治様
- ワイ・ケー・ビー工業株式会社様
- 三尾義彦様
- 医療法人 明陽会様
- ミリオン電工(株)様
- ウエダ歯科医院 上田信義様
- 美濃工業株式会社 杉本潤様
- 後藤舜吉様
- 東濃コンクリート工業株式会社 藤井有二様
- 東清株式会社 吉村敏博様
- 伊藤成章様
- (株)加藤工務店 加藤良一様
- 恵北医院 吉江研一様

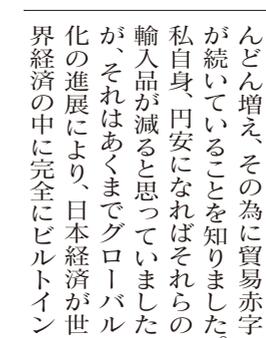
(順不同)

とべとんび」と始まる「とんび」が代表作です。また、全国にわたり多くの校歌を作り、その数数百と言われます。

作曲した小松耕輔さんは皆さんご存知のように作曲家であり、学習院大学、お茶の水大学等で講師も勤められ、多くの著書もあり、合唱コンクールを創設されたり、著作権擁護活動も主導されるなど、音楽界はもとより文化活動全般に多大な役割を果たされました。

校歌に関する事項を調べて、改めて本校校歌のいずれもが素晴らしいものであるという感を強くしました。私事で恐縮ですが、昭和五年制作の高等女学校校歌のメロディーを自宅で流していたところ、八十六歳になる母が突然「恵那山空に」と歌いだしました。茶屋坂をふうふう言いながら登校した七十年以上前を思い出して歌う顔を見て、今学ぶ生徒が何十年先でも歌うように、中津高等学校への気持ちに更に深まるようにしたいと強く思ひました。

追記 本校HPで中津高等学校校歌、中津高等女学校校歌昭和五年制作、同古歌を聞く事が出来ます。



平成25年5月 総会・懇親会

読んでもみましたが、七十年史に記述の事が手紙に確かであると同時に山田耕筈先生に見て頂いたという記述もあり、これまでの記念誌では記述されていない新しい発見と思ひ今回の記事としました。

話が作曲者に移して、旭陵七十年史によれば、校歌作曲者の河野信一先生は岐阜師範学校、岐阜大学学芸学部で長年教鞭を取られていたようですが、旧知の仲である手島校長からの依頼とあつて他校からの依頼を後回しにして本校分に専念されたとあります。歌詞の語調が不定であり、語数が多く随分にご苦労され、「恵那山は響つ」とあつたものを「恵那山響つ」と国語専攻の教授に相談されたうえ、伊藤嘉夫氏にも了解されて変更されたこと等が七十年誌に紹介されています。

同誌には曲が完成して本校へわざわざ来校して熱心に指導して下さった記事もありますが、その時の音楽担当者である、高橋照子先生により、たまたまそのやり取りした手紙があり是非見て欲しいと言つてご連絡を頂きましたので、ひとまずお預かりして写真に収め、手紙の内容を

# 言葉の矢

中津高校定時制同窓会会長  
佐藤 和男(定15回生)



中津高校定時制は、昭和二十三年の開校以来六十余年、本校・四分校(福岡・付知・苗木・加子母)合わせて三千二百余名の卒業生がいる。恵那山を仰ぎ、等置山に夕日の沈む頃、旭ヶ丘に四年間登り続けた仲間たちだ。今も日本の歌として愛唱される「高校三年生」を当時、僕は「高校四年生」と歌詞を

変えて歌った。ある時、本校・四分校交流会で、同窓生の一人がなつかしさを込めて「夜学」と言った。「定時制」より「夜学」「夜間」の方が似合うという。夜学は文字通り夜学ぶ、そこに定時制とは違う語感があるという。

相手が意識的であろうとなく、かうと、当方には胸にささる言葉がある。あるときにはそれが「定時制」だった。思春期の感性は、過敏に反応する。ささった言葉の矢を抜こうともがいていたことを、半世紀も前のことなのに、昨日のことのように思い出す。

それからその矢は抜けたか、あるいは、刺さったままだ。だが、いつの間にか、身体の一部となつてしまった。受け入れることができたのかもしれない。その転機は人生経験の積み重ねにあつたのではない。一度しかない人生、唯一無二の人生、誰にも変わることもできない私の人生——言葉で表されることの本当の意味がわかるまでには、時間が必要であつた。一つひとつ、ゆつくりと、階段を上るように。

同窓会は、青春時代を思い出す格好の機会だ。同窓会の集まりに出てみれば、そこには、幾つもの言葉の矢を身体に受けて、生きていく仲間を発見する。この意味で、同窓会は新たな発見の場でもある。

今、就職の場で正規社員、非常勤社員の区別がされる。差別にもなっているという。昔、定時制卒は、高卒と区別された。高卒と同様に扱う企業は少なかつた。一学年上の生徒会長だつた故宮川隆雄さんは「定時制だから頑張ろう」と当時の全校生徒文集「結晶」に書いている。言葉の矢を、励みに変える呼びかけだつたのだ。

創立一〇〇周年記念事業として開始された「海外留学奨学金制度(通称「旭陵留学生プログラム」)は平成二十一年に第一期の最終年の選考を終了しました。引き続き、創立一〇〇周年の年迄、二名の生徒を派遣する第二期旭陵留学生プログラムが新たにスタートすることになり現在に至っています。平成二十五年七月までの派遣者数は計三十七名となっています。

平成二十四年度は、翌二十五年の八月に希望派遣国に向けて出発する第九回旭陵留学生二名を選抜しました。また、昨年六月に二名の第七回旭陵留学生が、本年七月に一名の第八回旭陵留学生がそれぞれの派遣国から成長した姿で無事帰国しました。帰国直後の報告会での発表や、中学生一休体験入学での英語スピーチなど活躍をしてくれました。残念ながら今年度は応募者が減少しましたが現在選考を継続中です。

平成二十四年度旭陵祭より、留学生ブースをロビー展示として実施しています。展示内容は、留学を振り返り、現地での様子を写真や図表などでまとめたものが掲示されました。授業で使用した教材や、卒業アルバムなどが配置され、実際に手にとって見る事ができるよう配慮されていました。熱心にご覧になる来場者の質問に、旭陵留学生が答える場面もあり盛況でした。また、出発予定者は事前学習として留学先の国の様子や自分が取り組むテーマなどについての展示発表を実施しました。

## 旭陵会だより

教頭 岡本 春信

卒業生のみならず、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。平成二十五年年度の中津高の様子を御紹介いたします。先輩諸氏の益々の元気の源となりますように。

が行われました。新入生歓迎会が生徒会役員中心に行われ、緊張していた新入生を先輩たちが温かく迎え、中津高生としてしっかりと第一歩を踏み出すことができました。

五月、部活動の試合が連休を中心に行われ、三年生は引退の時期を迎えます。またいつも華やかな演奏を聞かせてくれる吹奏楽部定期演奏会が行われ、同じように三年生が引退します。同時に三年生の本格的な受験勉強が開始され、模擬試験が行われます。またカリキュラムで特徴的なこととして、本校は中京学院大学と高・大連携により大学の講座を受けることができ、開講式がおこなわれました。「英会話特講」など生徒たちは積極的に学外での講義を聞きに行きます。中旬には少し勉強でくたびれてきた心を遠足でリフレッシュ。一年生は「リトルワールド」二年生は「松代大本営跡」三年生は「大宮見学」兼ねて「京都」へ行ききました。下旬には前期中間考査が待っています。一年生にとっては高校になって初めての試験。職員室に質問にくる生徒が多くなりました。

六月、教育実習が行われ、かつて本校で学んだ卒業生たちが母校に戻ってきました。授業の合間には自分たちの経験を生徒たちに語ってくれ、中津高魂が伝わっていました。中津高魂といえは、下旬に実施された旭陵祭で、四月より少しずつ準備をしてきた文化祭のクラス発表と体育祭の応援。文化祭は土日で学校を地域の方に開放して行われました。一年生「展示」では貼り絵やペットボトルのタワーなどユニークな作品が並び、二年生の「演劇」ではダンスなど若さ溢れる発表となりました。しかし一番の見ものは三年生の「演劇」です。舞台装置も、演劇部の協力による照明も本格的で、クラス全体がまとまって頑張る姿は素晴らしいものがあります。今年の大賞は三年F組の演劇でした。またPTA役員の方々に食品バザーを行っていただき、校内は多くの方でにぎわいました。翌日は体育祭。元気に走る競技あり、ほほえましい男女の二人三脚あり

七月、八月、旭陵祭が終了し夏がやってきました。中津高生にとっては勉強の夏、部活動の夏です。模擬試験が次々と行われ

七月下旬には三者懇談で学習状況などの振り返りと三年生は志望校を真剣に話し合いました。夏休み中教室が開放され、エアコンの効いた中で補習を受けたり連日登校して自学に励む生徒たちがたくさん見られました。全国大会にはいつものようにウエイトリフティング部・水泳部が出場しました。そんな中で野球部の甲子園予選が行われ、硬式となつて初めての「夏の一勝」を勝ち取り、応援席は最高の盛り上がりを見せました。

九月・十月、今年は大変暑く、エアコンが十月まで必要となりました。天学生在に聴く会では先輩たちから貴重なお話をいただきました。中旬には地区の英語スピーチコンテストが開かれ、本校生が二位となり県大会に出場しました。前期の期末考査が下旬に行われ前期の成績が生徒たちに手渡されました。節目節目にしっかりと反省して十月後期がスタート。校長先生は講話で吉田松陰の「夢を持って」を引用して弱気にならず、事にあたつての準備の大切さを生徒に伝えました。台風を始め自然災害が今年度は多く発生し、県は警報への対応を改め、すべての警報に対して安全

な場所での待機を義務付けました。十月下旬に実施された二年生研修旅行も心配されましたが、生徒たちは無事に沖縄に渡って立派に研修を行いました。

十一月以降、一・二年生は勉強の秋、スポーツの秋。毎日課される宿題に追われながらもグラウンドや体育館では、放課後生徒の元気な声が響き、吹奏楽やギターマンドリンの練習の音が聞こえてきます。また読書の秋として前期に引き続き朝読書を実施しました。三年生も推薦入試やセンター試験が迫っていました。真剣に読書を行い、中津高生の懐の深さを感じられました。このあと三年生は放課後や特別編成の授業でセンター試験演習を行います。その後国立私立の大学に挑戦していきます。一・二年生はそんな先輩の背中を見ながら、やるべきことを一杯頑張る、特に一月最後に行われる弁論大会で自分たちの主張を述べ、コミュニケーション力を伸ばすだけでなく「生き抜く力」を養っていただきます。今年度も生徒たちのパワーを感じつついろいろなことを教えられた一年でした。

中津高の一年 四月、盛大な入学式とそれに続く始業式をもって中津高の一年が始まりました。平成二十五年年度も昨年度に続いて田中栄吉校長の訓示を聞くのは新入生二〇二名と在校生四〇三名。始業式では校長先生の「今があるのは、これまでがあるからである。」と、まず先輩たちが築きあげてきた伝統に言及し「ただそれだけではだめである。各自原点に立ち返り本校生が大切にしている『自由と個人の尊厳』の意味を考えてほしい。」と生徒たちを激励されました。緊張する一年生に対して、本校では学習オリエンテーションを実施し、生徒の不安を取り除くとともに、中津高生として学習中心の高校生活を送ることを指導します。もちろん高校生活一番の思い出となる部活動については、先輩による部活紹介があり、各部活動による新入生獲得合戦

が行われました。新入生歓迎会が生徒会役員中心に行われ、緊張していた新入生を先輩たちが温かく迎え、中津高生としてしっかりと第一歩を踏み出すことができました。

五月、部活動の試合が連休を中心に行われ、三年生は引退の時期を迎えます。またいつも華やかな演奏を聞かせてくれる吹奏楽部定期演奏会が行われ、同じように三年生が引退します。同時に三年生の本格的な受験勉強が開始され、模擬試験が行われます。またカリキュラムで特徴的なこととして、本校は中京学院大学と高・大連携により大学の講座を受けることができ、開講式がおこなわれました。「英会話特講」など生徒たちは積極的に学外での講義を聞きに行きます。中旬には少し勉強でくたびれてきた心を遠足でリフレッシュ。一年生は「リトルワールド」二年生は「松代大本営跡」三年生は「大宮見学」兼ねて「京都」へ行ききました。下旬には前期中間考査が待っています。一年生にとっては高校になって初めての試験。職員室に質問にくる生徒が多くなりました。

七月、八月、旭陵祭が終了し夏がやってきました。中津高生にとっては勉強の夏、部活動の夏です。模擬試験が次々と行われ

七月下旬には三者懇談で学習状況などの振り返りと三年生は志望校を真剣に話し合いました。夏休み中教室が開放され、エアコンの効いた中で補習を受けたり連日登校して自学に励む生徒たちがたくさん見られました。全国大会にはいつものようにウエイトリフティング部・水泳部が出場しました。そんな中で野球部の甲子園予選が行われ、硬式となつて初めての「夏の一勝」を勝ち取り、応援席は最高の盛り上がりを見せました。

九月・十月、今年は大変暑く、エアコンが十月まで必要となりました。天学生在に聴く会では先輩たちから貴重なお話をいただきました。中旬には地区の英語スピーチコンテストが開かれ、本校生が二位となり県大会に出場しました。前期の期末考査が下旬に行われ前期の成績が生徒たちに手渡されました。節目節目にしっかりと反省して十月後期がスタート。校長先生は講話で吉田松陰の「夢を持って」を引用して弱気にならず、事にあたつての準備の大切さを生徒に伝えました。台風を始め自然災害が今年度は多く発生し、県は警報への対応を改め、すべての警報に対して安全

な場所での待機を義務付けました。十月下旬に実施された二年生研修旅行も心配されましたが、生徒たちは無事に沖縄に渡って立派に研修を行いました。

十一月以降、一・二年生は勉強の秋、スポーツの秋。毎日課される宿題に追われながらもグラウンドや体育館では、放課後生徒の元気な声が響き、吹奏楽やギターマンドリンの練習の音が聞こえてきます。また読書の秋として前期に引き続き朝読書を実施しました。三年生も推薦入試やセンター試験が迫っていました。真剣に読書を行い、中津高生の懐の深さを感じられました。このあと三年生は放課後や特別編成の授業でセンター試験演習を行います。その後国立私立の大学に挑戦していきます。一・二年生はそんな先輩の背中を見ながら、やるべきことを一杯頑張る、特に一月最後に行われる弁論大会で自分たちの主張を述べ、コミュニケーション力を伸ばすだけでなく「生き抜く力」を養っていただきます。今年度も生徒たちのパワーを感じつついろいろなことを教えられた一年でした。

進路指導について 昨年度受験の結果は過去最



## 第二期旭陵留学の現状と展望

渉外部 小林 主殿

報告を作成してもらい、展示することもできたため、在校生が興味深く報告を読む姿が見られました。また、これまでの留学生一覧も同時に展示し、総勢三十名を超えた先輩たちの成果に関心を抱く来場者の姿が印象的でした。

今年度は帰国が文化祭に間に合わなかったため、写真や原稿を送り、今年度は卒業した旭陵留学生のうち一名が六月に本校での教育実習に参加しました。その折に近況

付してもらい、その一部を展示しました。これは現在でも常設展示コーナーとしてご覧いただけます。昨年度からの新しい取組として、これまでの全旭陵留学生の近況報告の冊子を作成しました。原稿を依頼したところ、国内のみならず、海外留学中の者もあり、まさにグローバルに活躍する姿を報告してもらいました。冊子は同窓会役員会で披露させて頂いたほか、他の機会でも紹介させていただいております。今後継続して発行していく予定です。



認定証授与式(平成24年12月)

平成二十四年度より初めて関わることに、責務の重大さに日々緊張する思いです。毎朝、旭陵留学生の無事故と健康を祈る日々を送っています。幸い、中津校生の資質の素晴らしさと、関係者の努力、家族の思いがあつて、開始から今日まで、事故もなく、全員が無事に留学生生活を終え、それぞれの舞台で活躍してくれています。将来、この旭陵留学生から、世界でもまた地域で活躍する人材がひとりでも多く輩出できればと思っております。

高数の七十九名という国立大合格者がありました。これは一年生からの丁寧な学習指導に始まり、日々の学習記録の実践や「わかる・力のつく」授業改善、土曜補習・コンパスルーム開放などが総合的に実を結んだ結果であると分析しています。しかし一番大切なのは生徒にやる気を持たせる指導です。『受験は団体戦だ』を合言葉に、すべての生徒を最後まで育てようという職員団の気持ちと戦略をこれからも続けていきます。



励励会・帰国報告会(平成24年7月)

生徒指導について 本校は比較的さまざなところで生徒の自主性に任せる面が多く、頭髪・服装、特に女子のスカート丈についてご指摘を受け

ることが多かったのですが、近年少しずつ改善されてきました。しかしまだ十分とはいえないので全職員で声かけや指導を行っています。また最近問題となっているネットのトラブルにも本校も無縁とはいえません。加えて心の問題を抱える生徒も多く、教育相談を職員やカウンセラーによって行っています。卒業した後も母校を誇りと思えるような学校作りを目指し、今後とも努力してまいります。卒業生のみならず、引き続き御指導御支援をお願い申し上げます。



七月、八月、旭陵祭が終了し夏がやってきました。中津高生にとっては勉強の夏、部活動の夏です。模擬試験が次々と行われ





# 野球部 六年目 悲願の初勝利 その道のり

**回想**  
平成十九年十月岐阜県軟式野球秋季新人大会で、十三年ぶり二度目の優勝を決めた軟式野球部は、東海大会では初戦を突破しベスト四の成績を残しました。同窓会や学校関係者、地域住民等からの熱い声があり、平成二十年一月に硬式野球に転向。春季地区大会から中津高校硬式野球部が参戦しました。

昭和五十二年には、国民体育大会において全国制覇した伝統のある野球部です。後援会も充足されバックアップ体制も整いました。

この年は大垣工業高等学校と対戦し、二点ビハインドの九回二死から同点としましたが、延長十一回にサヨナラ負けとなり初陣は飾れませんでした。平成二十二年には、春季地区大会で惜しくも一点差で土岐商業高等学校に破れましたが、準優勝となりました。選手権大会の初戦は強豪大垣日大高等学校で、先制したものの初勝利を飾ることはできませんでした。

硬式野球といえば、「甲子園」です。春の選抜大会、夏の選手権大会で甲子園を舞台に球児達が熱戦を繰り広げます。選抜大会は地区大会・県大会・東海大会を勝ち上がり、東海地区での選考の結果出場が決まります。選手権大会は一発勝負の試合で、各都道府県の代表が戦う大会です。この選手権大会が三年間の集大成となります。

第九十回全国高校野球選手権記念岐阜大会  
二回戦  
中津2-3x大垣工業 (延長十一回)  
第九十一回全国高校野球選手権岐阜大会  
二回戦 中津6-8大垣東  
第九十二回全国高校野球選手権岐阜大会  
二回戦 中津1-12大垣日大 (五回コールド)  
第九十三回全国高校野球選手権

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R	H	E	B	S
中津	10	1	4	0	0	0	2	0			8	16	2	1	0
大垣北	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3	6	1	0	0
大垣東	5	6	9	8	7	1	4	2	3		8	3	4	2	7
大垣南	5	6	9	8	7	1	4	2	3		8	3	4	2	7
大垣北	5	6	9	8	7	1	4	2	3		8	3	4	2	7



第一試合  
中津高等学校の先攻で、先制点をあげその勢いのまま初勝利を飾りました。序盤からリズムをつくり打線も切れ目なく着実に加点していきましました。大垣市北公園野球場で行われた二回戦は、大垣日大高校との対戦でした。一点を先行したものの、結果は1-8の七回コールド負けでした。その後大垣日大は岐阜県の頂点に立ち甲子園球場に駒を進めました。



(主将の感想)  
三年間を振り返ると、あつというまだったと思います。その中で、やっぱり一番はみんな成長したというのが大きいです。自分達の代で一勝できたということは、間違いなく一生の思い出になります。新チームになったから、勝つことの喜びも負けることの悔しさも、どちらもたくさん経験しました。勝った時の喜びはみんな味わえて、やっぱりチームプレーはいいなと思いました。小学三年生から野球をはじめ、十年は本當にひたすら野球をやってきました。まだ野球のな生活はあまりイメージが湧かないですけど、終わってしまいましたが、良い仲間、後輩に恵まれて、野球ができて、自分は本當に幸せ者でした。自分自身昨年の秋大会では一度ダメになるとそのままためであることが多くて、五回コールドになってしまふことがありましたが、日大戦では、初回に失点してしまつたけど、その

あと三イニングは無失点で切り抜けることができました。もちろん、みんなのおかげなんですけど、それでもこれは自分の成長だと思えます。でもまだ、九イニングはもたせません。これが今の自分の実力です。実力をのばせるように、受験勉強も攻め続けたいです。

歴史は始まったばかりです。球史に残るような活躍ができるよう、今後も精進していきます。

平成二十一年に発足した定時制バドミントン部も今年で五年目になりました。

昨年度は四年生の小栗忠君が県定通総体個人シングルスで準優勝し、全国大会に出場しました。個人戦は三回戦で接戦の末敗れましたが、団体戦は岐阜県選抜チームの一員として出場し、見事三位を勝ち取りました。京都府との準々決勝は大接戦で、勝った瞬間には選手達は抱き合っ喜び、涙を流して感動を分かち合っていました。

今年度は四年生の鈴木和己君が県定通総体個人シングルスで東濃地区大会で負けた相手を決勝で取り、悲願の優勝を果たしました。彼は今まで力を持っていましたが、組み合わせの都合で上位の成績を収めることができずにいました。普段物静かな彼が、その試合を決めた時に見せたガッツポーズはとも印象的でした。全国大会では男子団体で三回戦に進出しました。

活の困難を抱えながら練習に取り組んでいます。厳しい状況の中だんだん部員が少なくなっていますが、今後もバドミントン部の火を消さないよう取り組んでいきたいと思います。同窓会を中心とした一部活動を応援する会をはじめた皆さんの支えによって活動ができています。この場を借りてお礼申し上げます。

転機となり、今年度は「全国大会へ個人で出場し決勝に進出する」という大きな目標を立て、真摯に毎日練習に打ち込みました。今年度は、春先の試合から岐阜県新記録、岐阜県高等学校新記録を連発し、二年生ながら東海大会二位という成績を収めました。そして、インターハイやジュニアオリンピック、東京国体にも個人種目で出場することができました。しかし、全国の舞台で力を発揮することができず、インターハイが二十一位、ジュニアオリンピックが九位、国民体育大会が十二位と、惜しくも目標としていた全国大会決勝進出を叶えることはできませんでした。本人は、「中津高校水泳部に入部して、多くの全国大会に出場し、多くの合宿などに参加できるようなり、非常に視野が広がった。高い目標を掲げ、絶対に達成したいという気持ち芽生え、練習の取り組み方などの意識がとても高くな



# 定時制・バドミントン部 全国大会へ出場

# 茶道部 茶道部が出前茶会

中津高校茶道部は、近くの児童館に子供や高齢者を招き、「出前茶会」を開いています。

「日本が誇る伝統文化を気楽に体感してもらおう」という取り組みです。

平成二十四年末には地元東郷児童館に十二人の部員が出張館内の和室に毛氈を引いて茶席を設営。集まった園児や小学生、お年寄りを前に、和服姿で薄茶のお点前を披露しました。部員やお年寄りに作法を教わりながら緊張した面持ちで抹茶を賞味していた子供たちも、お点前の体験では終始笑顔。高校生の手ほどきで楽しそうにひしゃくや



# 水泳部 期待を込めて

中津高校水泳部は、「人格の形成」と競技力の向上という二本の柱を目標に活動をおこなっています。水泳部にとって昨年度及び今年度は、今までの卒業生を含め長年にわたる部員の努力の成果が実を結び、大きな飛躍を遂げることができたと感じています。

昨年度、今年度ともに、自己ベスト記録を全員が更新し、東海大会にのべ十八名が出場しました。その中でも特に優秀な成績を収めた部員を紹介します。

まず一人目は、平成二十五年三月に卒業した早川由香です。全国中学にも出場し、期待され入部しましたが、一年次は力を発揮できず結果を残すことができませんでした。二年次から少しずつ記録が上がりましたが、その年の山口国体に岐阜県代表として出場を果たしました。全国大会を経験したことにより競技に対

しての意識が高まり、充実したトレーニングをおこなうことができるようになりました。その結果、才能を開花させ、二年次では中津高校水泳部創部以来初めてとなるインターハイに出場。そして、岐阜清流国体に開催県の選手として出場することができました。高校での全国大会の結果はすべて予選敗退でしたが、愛知教育大学に進学した現在も水泳を続け、日本学生選手権に出場しベスト記録を更新し、さらに今年おこなわれた東京国体にも岐阜県代表として出場し、成年女子四〇〇mメドレーリレーでは決勝に進出し八位入賞を果たし、今までの努力の成果が全国大会入賞という大きな結果を残すことができました。本人は、「水泳を通して、また、中津高校水泳部の活動を通して、本當に多くの事を学びました。練習がきつく結果が出ない時期

もあり、挫折しそうになったこともたくさんありました。しかし、家族や仲間、先生方など本當に多くの人の支えがありここまで続けることができました。

二人目は、現在二年生の丸山龍希です。中学時代は全国大会の出場経験もなく、特別目立つ選手ではなかったですが、高校入学後飛躍的に記録を向上しました。昨年度は、インターハイには力不足で出場できませんでしたが、岐阜清流国体にリレーメンバーとして出場することができました。地元開催の国体ということで、八月から九月中旬の大会期間までの二十五日間ほどの合宿をおこない岐阜県をあげて強化をおこないました。その結果、日に日に成長を感じるようになりました。岐阜国体では、リレーではありますが、自己ベスト記録を大幅に更新し決勝進出七位入賞の原動力の一人となりました。昨年の国体に参加、入賞できたことが大きな

転機となり、今年度は「全国大会へ個人で出場し決勝に進出する」という大きな目標を立て、真摯に毎日練習に打ち込みました。今年度は、春先の試合から岐阜県新記録、岐阜県高等学校新記録を連発し、二年生ながら東海大会二位という成績を収めました。そして、インターハイやジュニアオリンピック、東京国体にも個人種目で出場することができました。しかし、全国の舞台で力を発揮することができず、インターハイが二十一位、ジュニアオリンピックが九位、国民体育大会が十二位と、惜しくも目標としていた全国大会決勝進出を叶えることはできませんでした。本人は、「中津高校水泳部に入部して、多くの全国大会に出場し、多くの合宿などに参加できるようなり、非常に視野が広がった。高い目標を掲げ、絶対に達成したいという気持ち芽生え、練習の取り組み方などの意識がとても高くな

転機となり、今年度は「全国大会へ個人で出場し決勝に進出する」という大きな目標を立て、真摯に毎日練習に打ち込みました。今年度は、春先の試合から岐阜県新記録、岐阜県高等学校新記録を連発し、二年生ながら東海大会二位という成績を収めました。そして、インターハイやジュニアオリンピック、東京国体にも個人種目で出場することができました。しかし、全国の舞台で力を発揮することができず、インターハイが二十一位、ジュニアオリンピックが九位、国民体育大会が十二位と、惜しくも目標としていた全国大会決勝進出を叶えることはできませんでした。本人は、「中津高校水泳部に入部して、多くの全国大会に出場し、多くの合宿などに参加できるようなり、非常に視野が広がった。高い目標を掲げ、絶対に達成したいという気持ち芽生え、練習の取り組み方などの意識がとても高くな

転機となり、今年度は「全国大会へ個人で出場し決勝に進出する」という大きな目標を立て、真摯に毎日練習に打ち込みました。今年度は、春先の試合から岐阜県新記録、岐阜県高等学校新記録を連発し、二年生ながら東海大会二位という成績を収めました。そして、インターハイやジュニアオリンピック、東京国体にも個人種目で出場することができました。しかし、全国の舞台で力を発揮することができず、インターハイが二十一位、ジュニアオリンピックが九位、国民体育大会が十二位と、惜しくも目標としていた全国大会決勝進出を叶えることはできませんでした。本人は、「中津高校水泳部に入部して、多くの全国大会に出場し、多くの合宿などに参加できるようなり、非常に視野が広がった。高い目標を掲げ、絶対に達成したいという気持ち芽生え、練習の取り組み方などの意識がとても高くな

# ご支援感謝致します

ウエイトリフティング部

平成二十四年度に卒業した金子健太郎君は、八月一日から石川県珠洲市で開催された第五十九回全国総合体育大会で六十九kg級に出場し、スナッチ一〇五kg、C&S、ヤーク一三二kg、トータル二三七kgを挙げ、四位入賞を果たしました。また、十月六日から行われた岐阜県清流国体においても五位に入賞をするなどの目覚ましい活躍をしています。今年もそれに続き、二三年生を中心に多くの生徒が東海大会や全国大会に出場しています。東海大会には五名、全国大会には三名がそれぞれ出場しています。全国高校総体に出場した三年生は、六月の東海大会で入賞こそ果たしましたが自己記録に及ばず、思うような成績を残すことができませんでした。それだけに高校での競技生活最後となる全国高校総体には、より特別な思いを抱いて大会に望みました。試合前に生徒に尋ねると「県内の大会とは比べ物にならない」と不安げな表情を浮かせていましたが、「楽しんでゾクゾクした」程よい緊張感と冷静さを保ちながら試技できたことと試合について振り返っていました。その言葉通りに二名とも自己記録を更新し、予選ランキングから大幅に順位を上げる結果となりました。残念ながら入賞には届きませんでした。この数ヶ月これまでにない前向きな姿勢で活動に取り組んできました。そうした努力がこのようないい結果を生んだのだと感じています。

また、帰りの車中で、生徒が「これが最後の大会かと思う」と寂しい。練習はきつても何度も辞めたいと思ったが、仲間の存在や周りの支えの中で最後までやり遂げることができた。家族や先生方、仲間のためにも頑張ろうと思えた。試合では自分の持つ力を出し切れたが、もっと強かったら、もっと努力していたらという気持ちも強く残っています。



ウエイトリフティングを通じて様々なことを感じ取り、成長しているようです。こうした経験を糧に、今後においても多方面での活躍を期待しています。

ウエイトリフティング部は、現在一年生五名、二年生三名で活動していますが、日々懸命に練習しており、今年度行われる選抜大会や来年度の総体においても活躍が期待できる生徒もいます。部活動だけでなく、本分を疎かにしない「両立をモットー」に今後も活動していきたいと考えています。本部活動は、多くの方々のご支援やご理解のもとに成り立っています。心より感謝致しております。今後も温かく見守って頂けるよう精進していきます。

# 中津川防災市民会議ボランティア

伊藤 正樹 (41回生)

東日本大震災が発生した年の七月、中津川防災市民会議というボランティア団体が子供同行可能な被災地支援に行くという事を知り、当時小学五年生だった息子に意思を確認したところ、息子に同意を確約したところ、興味本位で行くものではないが、それでも「行きたい」と言うので、私と家内と息子で参加させて頂きました。

現地へ入ると、何回か行っている先輩ボランティアの方曰く「ずいぶんきれいになった」との事でしたが、初見の我々は被害の甚大さと、復旧の遅さに衝撃を受けました。

私たちが行った石巻市には、海沿いに日和大橋という橋があり、早朝息子と自転車を借りて橋を渡りましたが、そこから見えるほぼ全てが津波の被害を受



けたのではないかと思われ、息子も言葉が失っていました。現地では、大人は魚加工工場の中の泥や魚や瓦礫の片付け、子供は民家の食器洗い・避難所の網戸造り等をさせて頂きました。ほんの少しの時間でしたが、確実に一歩前へ進むお手伝いが出来たと思います。

かつて私はボランティアについて、偽善・自己満足と表裏一体と考えていましたが、石巻での被災地支援を経験して、決してそうではないと感じました。現地でも遠くでも構わない。『いつも忘れずに居ますよ。』と感じさせてあげられる事が大切だと思います。復興に目途が立つまでにはこれから何十年もかかります。その時が来るまで被災地の方を応援する気持ちを持ち続ける事が何より必要とされていると思います。

身体は遠くに居ても、被災地の方が心から笑える時が来る事を、この先何十年も願っています。

# 卒業生 文庫紹介

- 「アホ大学のバカ学生」 光文社
- 「山内太地 (47回生)」 石渡領司
- 「22歳 負け組の恐怖」 中経出版
- 「山内太地 (同)」 中経出版
- 「石渡領司」 中経出版
- 「東大秋入学の衝撃」 中経出版
- 「山内太地 (同)」 中経出版
- 「大学生図鑑2012」 普遍舎
- 「山内太地 (同)」 普遍舎
- 「PYROLYSIS-MS DATA BOOK OF SYNTHETIC POLYMERS」 UK Elsevier
- 「自分でやって半人前」 星雲社
- 「馬場英夫 (35回生)」 星雲社
- 「西田哲学を開く」 岩波書店
- 「小林敬明 (18回生)」 岩波書店
- 「(主役)のゆくえ」 講談社
- 「小林敬明 (同)」 岩波書店
- 「西田幾太郎の憂鬱」 岩波書店
- 「小林敬明 (同)」 岩波書店
- 「新・百人一首 (岡井隆 選)」 文芸春秋
- 「大島史洋 (14回生)」 文芸春秋
- 「歌集 遠く離れて」 ながらみ書房
- 「大島史洋 (同)」 ながらみ書房
- 「アララギの人々」 角川学芸出版
- 「大島史洋 (同)」 角川学芸出版
- 「我らともに受けて立たん」 つげ書房新社
- 「柘植洋三 (12回生)」 つげ書房新社
- 「あだくじよの文化」 つげ書房新社
- 「柘植洋三 (同)」 つげ書房新社
- 「リフレーム」 大和書房
- 「西尾和美 (15回生)」 大和書房
- 「栄枯盛衰図」 文芸春秋
- 「渡辺 建 (旧職員)」 文芸春秋
- 「つれづれなるまゝ、に」 自費出版
- 「石田謙蔵 (旧職員)」 自費出版
- 「手記 こっちにおいて」 風媒社
- 「吉村正夫 (旧職員)」 風媒社
- 「(順不同)」 風媒社

# 生きる人間力を

愛知県がんセンター名誉総長 大野 竜三氏 (9回生)



数年も短かった。七〇歳まで生きれば古希(古来まれなり)といわれたが、今は当たり前になった。それでも古希を迎える前に亡くなった同年代の友人が少なからずおり、その人たちの共通項は喫煙だった。私が若い頃の日本人男性の喫煙率は八〇%を超えていた。一九六〇年代中頃よりタバコによる健康障害が警告され始め、私も三三歳のとき禁煙したが、タバコの恐ろしさを認識できず喫煙を続けた同世代のほとんどは、がん、心筋梗塞や慢性閉塞性肺疾患などで亡くなったか、あるいは、現在これらで苦しんでいる。逆に、当時は珍しかった非喫煙男性や喫煙経験のない女性のほとんどは、今も極めて元気である。万病の元であることが科学的根拠を持って示されているタバコを吸わないことは、超高齢社会を

# 創作の原点は中津高校

歌人 大島 史洋氏 (14回生)



片側に黒板があり、郷土関係の新聞記事が何枚も切り抜いて貼ってあった。いま思うに、あれは誰がしてくれていたのだろうか。入学して早々のころ、その新聞記事の一つに中津川の短歌祭の記事があり、入選した私の歌が載っているのをその暗い廊下で見た記憶がある。たぶん私の歌が新聞に載った最初だろう。

廊下を進んで行って右側に折れ、中庭を渡り廊下で横切ったところに図書室があった。私は当時文芸部に所属しており、その部室というか溜まり場が図書室の脇の小さな一室にあつたので、そのあたりの場所をよく覚えていた。先生が中津川では有名だったから、知っている人も多いことと思う。平

# あんな先輩!こんな後輩!

高校生にとつての先輩のイメージは、せいぜい両親の年齢までと思う。一九六三年に卒業した私などは、さしずめ歴史上の人物だろう。それでも卒業後半世紀以上生き抜いた経験と医師としての立場から、これから世界一の超高齢社会に出てゆく若者たちに、どのように生きて行くべきかをアドバイスしてみたい。

私が卒業した年の日本人平均寿命は男六五・〇歳、女六九・五歳であり、現在の各々七九・六歳、八三・六歳に比べて十

〇%を超えていた。一九六〇年代中頃よりタバコによる健康障害が警告され始め、私も三三歳のとき禁煙したが、タバコの恐ろしさを認識できず喫煙を続けた同世代のほとんどは、がん、心筋梗塞や慢性閉塞性肺疾患などで亡くなったか、あるいは、現在これらで苦しんでいる。逆に、当時は珍しかった非喫煙男性や喫煙経験のない女性のほとんどは、今も極めて元気である。万病の元であることが科学的根拠を持って示されているタバコを吸わないことは、超高齢社会を

私が中津高校に入学したのは昭和三十五年の四月である。その頃の中津高校はまだ木造校舎で、正面玄関を入ると広い板敷きの廊下がつつと奥まで続いていて、歩いていくとぼこぼここと板張りの音がし、昼でも暗い感じのただ広い空間であつた。廊下の右側に普通科の教室が並び、奥の突き当たりの左右が農業科、工業科だつたと思う。その頃の中津高校は総合高校だつたので、確か牛小屋や馬小屋もあつたように記憶している。商業だけは中津商業高校があつた。

載っているのをその暗い廊下で見た記憶がある。たぶん私の歌が新聞に載った最初だろう。

廊下を進んで行って右側に折れ、中庭を渡り廊下で横切ったところに図書室があった。私は当時文芸部に所属しており、その部室というか溜まり場が図書室の脇の小さな一室にあつたので、そのあたりの場所をよく覚えていた。先生が中津川では有名だったから、知っている人も多いことと思う。平

大島史洋氏 近況

文芸春秋創刊九十周年記念特別企画「新・百人一首」近代短歌ベスト一〇〇に、中津川出身の歌人、大島史洋さんの作品が選ばれました。

今年が小倉百人一首編纂から八〇〇年目にあたるにちなんで、選者は短歌界の重鎮・岡井隆、馬場あき子、永田和宏、徳村弘の四氏。

正岡子規から与謝野晶子、斎藤茂吉、俵万智まで、時代を代表する百首を厳選したものです。

大島さんは中津高校在学中の一九六〇年、未来に入会し近藤芳美、岡井隆に師事。

早稲田大学大学院修了後、小学館で国語辞典の編纂に携わり、短歌では山本健吉賞、短歌研究賞、日本歌人クラブ賞などを受賞。

「新・百人一首」に入選した「軍々のさみしきおのれのありようのはし」は二〇〇九年に第十四回若山牧水賞を受賞した。センターの影に収録されています。

大島さんは中津高校を卒業して五十余年の月日が過ぎました。短歌を作り続けることができたと思っております。喜びを語りました。

文芸春秋社から文芸新書「新・百人一首」近代短歌ベスト一〇〇(一九二四)として刊行。

- 「アホ大学のバカ学生」 光文社
- 「山内太地 (47回生)」 石渡領司
- 「22歳 負け組の恐怖」 中経出版
- 「山内太地 (同)」 中経出版
- 「石渡領司」 中経出版
- 「東大秋入学の衝撃」 中経出版
- 「山内太地 (同)」 中経出版
- 「大学生図鑑2012」 普遍舎
- 「山内太地 (同)」 普遍舎
- 「PYROLYSIS-MS DATA BOOK OF SYNTHETIC POLYMERS」 UK Elsevier
- 「自分でやって半人前」 星雲社
- 「馬場英夫 (35回生)」 星雲社
- 「西田哲学を開く」 岩波書店
- 「小林敬明 (18回生)」 岩波書店
- 「(主役)のゆくえ」 講談社
- 「小林敬明 (同)」 岩波書店
- 「西田幾太郎の憂鬱」 岩波書店
- 「小林敬明 (同)」 岩波書店
- 「新・百人一首 (岡井隆 選)」 文芸春秋
- 「大島史洋 (14回生)」 文芸春秋
- 「歌集 遠く離れて」 ながらみ書房
- 「大島史洋 (同)」 ながらみ書房
- 「アララギの人々」 角川学芸出版
- 「大島史洋 (同)」 角川学芸出版
- 「我らともに受けて立たん」 つげ書房新社
- 「柘植洋三 (12回生)」 つげ書房新社
- 「あだくじよの文化」 つげ書房新社
- 「柘植洋三 (同)」 つげ書房新社
- 「リフレーム」 大和書房
- 「西尾和美 (15回生)」 大和書房
- 「栄枯盛衰図」 文芸春秋
- 「渡辺 建 (旧職員)」 文芸春秋
- 「つれづれなるまゝ、に」 自費出版
- 「石田謙蔵 (旧職員)」 自費出版
- 「手記 こっちにおいて」 風媒社
- 「吉村正夫 (旧職員)」 風媒社
- 「(順不同)」 風媒社

**青山フユ先生と夫・比戦死の大尉 戦地から妻へ百四十通の恋文**

**「戦場からの恋文」発刊される**

平成二十五年八月、青山先生のまとられた夫の書簡集「防人通信」を元に、中日新聞社出版部より出版されました。愛する家族との別れは戦争の悲劇として大きな反響を呼びました。



**「戦場からの恋文」感想文**

我々中津高校5回生は昭和二十六年四月に入学しました。昭和二十三年学制改革がありましたので旧制恵那中学校から転校した先輩が三年生には居て、生徒会等で活躍し、中津高校の生徒を仕切っており、いわゆる猛者と云われ我々新入生には恐れられていました。その猛者達も黙らせる名物先生も数々居られました。英語の菅井幸吉先生、数学の松井良輔先生、花田春雄先生、化学の松原弘先生、生物の佐々木一雄先生、体操の林弥助先生、美術の松原鉄之先生、国語の青山フユ先生です。

なかでも青山フユ先生は中津高校の前身である中津高等女学校卒であり、そのサラブレッドぶりは尊敬の的でありました。大正十四年、中津高等女学校の四年生（現在の学制では高校一年生）の卒業生に、東京女子高等師範学校（現在お茶の水女子大学）に合格された才媛であり、中津高校卒業生ならば大半が知っております。

しかし私自身は中津高校時代にフユ先生に教わった事はありませ

**恩師 追悼**



**熊崎公平先生、大切な教えを ありがたうございました**

人としてのあり方生き方を、数学Ⅲの授業では非常に綿密にきっちり難解な微分積分や統計などを教えてくださったと記憶しています。三年生の終わりに近づく、私たちの大学受験がまじかになり、私たちの大学へ出す志願書には、先生が密封してくださった三年間の成績調査書を添えなければなりません。テストも方版原紙の謄写版で一枚一枚刷ってくださった時代です。今のようなコピー機はもちろんです。ブルーパーン機も、熊崎先生は私たちに君たちの調査書はカーボン複写紙を使って書か、どんなに力をこめて強く書いても元が一枚・複写は一枚の計三枚しかできない。一枚は原本として学校に残しておかねばならない。どうか、受験する大学は、このへんならば三月初めが試験の名古屋大、三重大など国立二期校と、三月末の静岡大、岐阜大などの二期校の二つだけに

**吉川 光彦 (5回生)**

**風化させてはならない 悲劇**

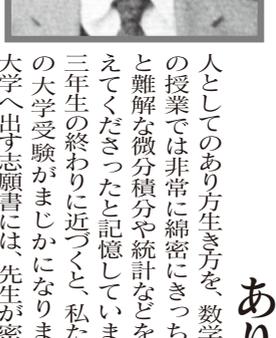
「防人通信」のついでに、御主人からの書簡は、戦争という特殊な厳しい環境の中で、よく書かれたと思うくらいに平常心で、ユーモアもあり、愛情を込めた一三五通の書簡集でありました。戦地と言った異常な環境の中で、二年半と言った間に、先生が考慮された驚きであります。あの時代に、あれだけのものを書いて、郵送したとは、普通の人には出来ぬ事でありませぬ。気丈なフユ先生が御主人の心を認め、心を寄せるのも当然と納得出来ます。

そんなお人柄の手紙でありますので、戦争中の文章でありますのに、むしろ楽しく読み通すことができる書簡集であります。むしろエッセイ集の感すら致します。

しかし序文の「はじめに」に書かれたフユ先生の文章は先生から聞いた話のなかで一番、重くのしかかりました。

フユ先生は御自分の事を生徒に話す事はありませんでした。が、は

**恩師 追悼**

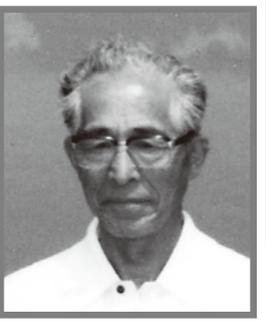


**三尾啓朗先生 立志為先**

先生は二年生の私たちに、必須科目物理 選択科目農業 測量 簿記を担当してくださいました。文字通り初めての授業の日、教室の扉を開けて入って来られた先生は、始業式とまったく同じく、動きが綺麗でした。間近に会った瞬間でした。先生は黒板に、先ず、立志為先という文字を書かれました。そして、その意味を説明してくださいました。十七歳の私にとっては、それが、自己的なのか、命令的なのか、迷いました。生意気少年の私ではありますが、漢文、書などに今までも興味がありました。そのとき、この職員室に書かかっているよ。という静かな声が耳に入ってきました。職員室に行ってみました。現在の照明と比べたら考えられないほど、薄暗い光のなかで、立志為先が浮かびあがってきました。なぜか感激でした。

その後、授業の度に、扉を開けて入って来られる姿はあの時とまったく変わらなず、飄々としたものでした。決して教を生徒に押し付けるものでなく、先生自身の筋に従って自分の行動を私たちに示されていたのだらう。これは大人になつてからの自分が感じたことです。時代の流れのなかで、私たちの在学中に中津高校定時制各分校の廃止が決定しました。廃校記念祝賀会(祝賀会といえる

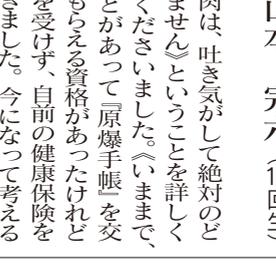
**三尾啓朗先生**



今度出た改訂版は宮地正人先生が監修され、前回に無かった挿絵もつけて、中日新聞社が発行されたものだけに、印刷製本が洗練されたものになって、本としては前回に比べれば数段に上等で読みやすい、楽しい本となっております。更に前回は無く改訂版に補われたのは、フユ先生の当時の日記の一部が抄録されております。これが楽しい紀行文を載している現実に戻して、引き締めております。

この日記が戦争の陰の部分の物語り、読む人を我に返らせ、私は茫然としてしまいました。戦記物語は数多くあります。留守を守る家族の苦悩を知るものもありましようが、これ程人の胸を締め付けるものは見た事ありません。これから将来、戦いなどは無いでしょうが、過去に現実としてあった、戦いの悲劇を身近に知るには貴重な記録であります。そして現在では考えられない状況下の夫婦の絆のあり様は、平和ボケして、会話の途切れた我が家にも大

**恩師 追悼**



**熊谷弘之 (付知分校22回生)**

だるうかの時、それは定時制にふさわしく夕六時からでした。私は一回は外(付知の外に出たい)の思いから名古屋に就職しておりました。開会ぎりに駆けつけた私は先ず、職員室に飛び込みあの書を、立志為先をファイルに収めました。

またまたその後、なぜか先生との深い係わりを持つ機会に恵まれました。そしてそれは、晩年の先生を見届けるまで続きました。先生は、退職されてなお、頑固一徹筋を通した一貫性は変わらず、それは、ともすれば周囲に軋轢を生ずる場合も、まま有りました。

人生の、尊い終焉。

迎えられた先生の姿は……確かに壮絶なものでした。なりふりかまわず最後まで自分の持てる力を絞り尽くして逝かれました。それは一見哀れにも感じられました。しかし、松陰先生の、親を思う心に勝る親心の一句にあるように、まさきと、子どもの私たちに、優しく語りかけた心でもありました。自分の利を求めず、純粋な心に従い、世間の流れに、微動なく、常に子どもに向かつてやさしく、慈愛を投げかけ続けてくださった。

啓朗先生。三尾先生ではなく、なぜか、啓朗先生。

先生…… 合掌

**恩師 追悼**

私、啓朗先生と初めて出会ったのは、中津高校定時制付知分校二年生の時でした。

ただ小学生の頃から町ではまだ珍しかった乗用車(スバル三六〇)で通勤される先生のお姿は、拝見しておりました。ご実家が付知町で、私の実家も先生宅とそう離れた所ではなく、人づてに恵比寿屋(屋号)の先生という言葉が頭の中にあり、子どもという言葉が頭の中にあり、子どもという言葉を聞きながら、車が進んでいくにつれて、車が進んでいくにつれて、よく眺めていたものでした。

始業式、進行役を務められた先生の姿を拝見した時、自分の中に今までのとは違った何かを感じられるのを覚えました。壇上の主事先生をはじめ、転勤異動の諸先生方、私たちに掛けられた礼(空色に近いグレイのスーツ)で、その姿がとも綺麗で、同時に、これはえらいことになった。戦後教育を十六年ほど受けてきた、生意気小僧の私にとつて、また、自由、平等、平和、そういつた言葉が、なぜか少々軽く飛び交う中で、とても衝撃でした。

**恩師 訃報**

- 熊崎公平先生 平成二十四年四月二十日(逝去)
- 三尾啓朗先生 平成二十四年四月二十日(逝去)
- 土屋甲子朗先生 平成二十四年四月二十日(逝去)
- 八十八歳、昭和二十九年から昭和三十三年、昭和四十四年から昭和六十まで数学教師として在籍
- 花田春雄先生 平成二十五年二月十七日(逝去)
- 八十八歳、昭和二十年から昭和三十年まで理科教師、昭和四十三年から昭和四十五年まで校長として在籍
- 三宅 鴻先生 平成二十五年八月十一日(逝去)
- 八十歳、昭和三十一年から昭和三十六年まで苗木分校、社会教師として在籍
- 高橋照子先生 平成二十五年六月十一日(逝去)
- 一〇四歳、昭和二十六年から昭和四十四年まで音楽教師として在籍
- 三尾啓朗先生 平成二十五年九月三日(逝去)
- 八十九歳、昭和二十五年から昭和三十三年まで苗木分校、農業教師として在籍

**恩師 訃報**

いただいたと思えました。殴つたり蹴つたりは暴力では人と人の争いが根本解決にはならぬと同様に、戦争では、いろいろな問題も真に解決できないということ、自らのすさまじい戦争体験を通して教えていただいたと思えます。

平成二十四年四月二十三日(イーター斎場で行われたご葬儀でも遺影の先生は「戦争はあかんよ」と私たちに真剣に語りかけてくださった)と感ぜました。「問題解決のために軍備、戦争争う」という手段では絶対に根本問題の解決にならぬということの大切さを、数学Ⅲのように筋道立てて教えていただきました。熊崎公平先生、在学中として最後まで素晴らしい教えをいただき本当にありがたうございました。

恩師 追悼

花田春雄先生を悼む



花田春雄先生 韻を含んだ何と素敵な御名前である事よ。

先生には、私が理系へ進む様な基礎教育をほどこして戴いた。

次は或る日の授業風景である。

先生は数1数2を担当されていた。先生は次の式を板書され、X軸を中心に戻転させると立方体ができる、この体積Vは次の様に表す事ができる。桐井君前へ出てこれを説明せよとの事であった。そこで私は、X軸を軸として一

桐井 徳治 (1回生)
回転させるとひょうたんが出来る。このbからaまでを切りとり

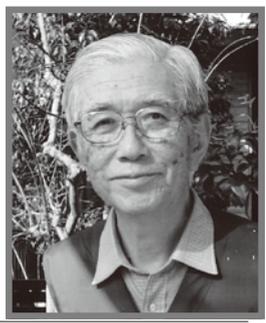
$$\int_a^b f(x) dx = V_{\text{horn}}$$

表す事ができるとニコニコしながら評価して下さった。



恩師 追悼

三宅鴻先生を偲んで



も夢のように叶い、ご家族様の深い理解と温かい看護の中、二ヶ月半ほど静かに八十歳の生涯を閉じられました。(八月十二日)

告別式に於いての梅村神官様の感きまわる祝詞に思わず感涙いたしました。(平成二十五年八月十五日)

その中、アツと思う間に五十年間の良き頃、良き時代に私はタイムスリップしました。

いつしか心は先生を偲ぶ思いと変わりました。先生のお人柄から伺いまして、とても、ご誠実なお人であいらつしやる事は言うまでもありません。全てを愛し愛されて一杯生き抜いた方でした。

特に教え子達の事はご自分の時間をさいても、できる限りひた向きな姿勢で貴く教育を心と体を通して教養育て下さいました。

先生は社会学がご専門で一年生の頃は地理が初めての授業で世界地図を縮図にする方法を習い、後

お礼の言葉

部をご紹介します。

「私が、当時中津高校教頭でいらつしやりました菅井先生のお骨折りで中津高校講師としていただきました時、毎日昼休み、放課後と音楽室に集まって楽しく歌い、ハモるグループがあり、その人達は実に澆刺とした好青年ばかり、皆音が美しく、ピアノも弾けて、学業成績も優秀、その上生徒会活動もする、理想的な生徒さんの集まりでした。長瀬さん、三宅さん、滝川さん方、皆よく気の合う申し分のないグループでした。

二期期になり、その人達の発案で、当時堀江先生がいらつしやりました東濃高校との交流が始まり、学校祭が賑やかになりました。その運動が次第に発展して、手嶋校長先生のご賛同とお力添えもいただいた東濃地区高校音楽連盟が出来ました。年一回、高校廻り持ちでの連合音楽会が続けられ、昨年五十周年を迎えられたと承り、感慨一入でございます。

一方、前述の音楽室で歌つていらしたグループが揃って大学進学なさり、程なく夏休みを迎えるや否や、

安保 由子

(苗木分校10回生)

に、大変役立ち嬉しく思いました。世界史はその後、習いました。

ある日、「私は今、とってもルネサンス」と心弾むその言葉が忘れられません。

とても充実した輝きのある人生と幸せに感謝の気持ちをルネサンスとおっしゃったのです。

先生は特別の才能をお持ちの方でもありました。それは音楽です。音楽を一生の趣味と決められた事は、百万の味方を得たと同じその人生の喜びに、ルネサンスとおっしゃったのだと思います。

音楽無しでは先生の事は語れません。音楽の本質を捉えた感性豊かな授業でございました。ポピュラーからクラシックと奥深く、譜面上の記号と内容、又、ト音記号の書き方は何線、何間の上にと音符の読みとりなど細かく教えていただきました。

特に古典音楽は素晴らしい。ある時、「自分のとても大切にさせていただきます。」

先生の「思い出」の文の一部を読ませてくださいました。

そして、二〇〇九年十月二十八日にはNHK広島放送局制作の「二〇〇歳バンザイ」にご出演なされ、全国放送されました。その時のおしゃべりのユニークさは私達の中にいまでも残っています。

最後になりましたが、私を含む数人のグループで落合の先生の自宅でお母様が、大層感動なさり、「私も歌いたい」の声が上がりました。一回集まられるようになり、週一なつかしい歌、美しい歌を歌つてからおしゃべりのお茶会、実に楽しい集まりでした。そのうち名前がほしいとの声で「ゴラスリ」となり、リラは古代ギリシャの楽器名ですが、母校の校章でもあり、私の入学当時の制服はお納豆色の袴着用の事で、その腰に七宝焼きの小さな校章を着けた時、大層うれしかったのを思い出して、提案して御賛同をいただきました。後ずつと続けていた、リサイタルを何度もなさる様になられ、一方町にはゴラスが沢山出来、第九の演奏会も四回も開催されるまで発展されました。うれしい限りでございます。

勝野 正彦 (13回生)

又つと集まって来られました。休暇毎に集まって、一層みぎのかがつた男声合唱団となられ「エスカ」や「名乗られました。いつも美しい、ハモ二を楽しませていただきました、うれしいことでした。

一方、私のところでピアノを弾いていた方達の発表会にエスカの皆さんに来ていただいたところ、お母様が、大層感動なさり、「私も歌いたい」の声が上がりました。一回集まられるようになり、週一なつかしい歌、美しい歌を歌つてからおしゃべりのお茶会、実に楽しい集まりでした。そのうち名前がほしいとの声で「ゴラスリ」となり、リラは古代ギリシャの楽器名ですが、母校の校章でもあり、私の入学当時の制服はお納豆色の袴着用の事で、その腰に七宝焼きの小さな校章を着けた時、大層うれしかったのを思い出して、提案して御賛同をいただきました。後ずつと続けていた、リサイタルを何度もなさる様になられ、一方町にはゴラスが沢山出来、第九の演奏会も四回も開催されるまで発展されました。うれしい限りでございます。

恩師 追悼

土屋甲子朗先生の思い出



土屋先生に最初にお目にかかったのは、昭和三十年四月、普通科三年一組の担任として挨拶をされた時であったと思ひます。最初の印象は東大出身という眼鏡でみても、何かつと大変学究肌の純朴な方で何か威圧感を感じた様に記憶しています。新学期が始まり一、二ヶ月経過した頃先生から教科書でない自然科学に関する本を参考として抄読の様な集まりを持ちたいとの呼び掛けがあり、これに関心をもち、十数名のクラスの仲間が集まり、この会は毎週一回位のペースで開催されました。

どちらかといえば皆余り興味のなかつた科学への関心を高める様に先生が企画されたもので、この会にはいつも大変和やかな雰囲気の中で進められ親睦会の様でした。残念な事ながら忘れましたが、先生がいわれたことで、皆さんは自然科学

道ひたすら一筋の人生に盛大な温かい拍手を送りたいと思ひます。通夜祭には、東海メーブルクワイアの団員の方々が駆け付けて下さり偉大な作曲家、高田三郎先生の名曲、典礼聖歌の合唱に送られ誠に感動的でした。

告別式では大勢の皆様方におしり惜まれつ、この世を旅立られました。涙なしでは語れませんが、その命は召されても、先生の暖かい慈しみの深い愛とその心は私達のこれからの支えとしていつまでも生きつづけます。

もつと...もつと生きていてほしい。とてもとても大切な方でしたのに、先生、本当にありがとうございました。最後のさいごまでルネサンスでした。合掌 平成二十五年九月

早川 常彦 (7回生)

先生は大変なエリートコースを進まれた方でしたが、いつも謙虚で誠実な方でした。高校生活最後の一年に大変教育熱心な先生の指導を受けられたことは幸運だったと思います。教員生活引退後も地域に於いて社会貢献され、八十九歳という長寿を全うされたこと、今は唯安らかに休み下さい。お世話になりました。

先生は初めてお会いしたのは昭和三十五年四月でした。私が中津高校に入り選択の授業で音楽を選びました。その一番最初の授業に教えていただいたのがシューベルトの「音楽に寄す」でした。それは今でも頭の中に鮮明に残っています。当然ながら部活は音楽部に誘われ毎日合唱練習に明け暮れました。当時は六十名近くの部員がいて大変活気のある音楽部でした。また先輩諸氏も大変面倒見のよい方たちばかりでした。

そういつた中で先生の合唱練習にかける情熱は私たちに強く伝わってきました。それが夏から秋にかけて開催するNHKの合唱コンクールや全日本の合唱コンクールにわざわざ岐阜まで出かけていきました。しかし残念なことに、つても一校だけに立ちはだかる学



昭和30年頃

掲示板

平成二十六年年度 中津高校 同窓会総会 五月十日(土) 中津川商工会議所ホール 幹事24回生・33回生 多数のご参加をお願い致します。

中津高校 定時制 同窓会総会 平成二十六年(2014)年 七月十九日(土)午前10時 会場 未定 同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

定時制四分校・本校 交流懇親会 平成二十六年年度は本校の幹事で十一月開催予定 多数のご参加をお待ちしております。

旭陵ゴルフコンペ 平成二十六年九月二十三日(祝) ユーグリーン 中津川市旭川六八八-154 ユーグリーン中津川ゴルフ倶楽部 TEL 0573-681611

平成二十六年年度 関西旭陵会 七月六日(日) 十二時~十五時 ホテルグランピア大阪

平成二十六年年度 関東OB会 十一月八日(土) 十二時半~ 飯田橋グラウンドパレス 飯田橋 TEL 03-626-1111 幹事22回生

第12回地区総会 名古屋地区区会 平成二十六年十月二十五日(土) 豊橋会館 豊橋市 豊橋会館 豊橋市 豊橋会館 TEL 053-491-2649 連絡先 TEL 053-491-2649 (五井良臣)

# 関東OB会だより

## 関東OB会のご報告

中津高校同窓会関東OB会会長 石黒廣洲 (13回生)



挨拶する三尾同窓会長

時あたかも東京岐阜県人会連イイベントが行われているグラントパレスホテルにて、十一月九日第二土曜日、一三名の参加者を得て中津高校関東OB会が盛大に開催されました。当日は中津川から大勢の方に遠路おいで頂きありがとうございます。田中学校長や三尾会長のご挨拶の中で、母校の生徒さん達の幅広い進学先・活発な部活・他に例を見ないような意欲的な海外留学制度などのお話、そして中津川市の今後やニアの話などを拝聴して、今までとは違った形で故郷に関心を寄せる機会を頂きました。平成二十七年の母校創立一〇〇周年の記念行事がスタートしている中で、旭陵留学制度の資金を捻出する記念事業である「太陽光発電システム設置」を支えて行くことの重要性をアピールされました。今年はまだ成果が出るに至らず、例年

通り有志の支援を藤原・松木両先生から皆さんにお願いしたところ、従来以上の寄付が集まったとのことで嬉しい限りです。二十一世紀の母校発展に向けての記念行事も成果が出るよう更なるご協力をよろしくお願ひします。

市長の乾杯の音頭で会食が始まりましたが、スピーチの中で今後の中津川市総合計画を策定

する時期にあり、市外に出ている縁の方々からの視点も必要としているとの発言がありました。様々な場面で外向きの姿勢が重要になってきているとの示唆が印象的でした。

乾杯のあとは、20、21回生の当年幹事さん達の人念な企画・準備で懇談の会が進行されました。今年は恩師青山先生の「戦場からの恋文」の出版があり、会場で紹介・販売しました。また、郷土の名産品が多くの人に当たりはずれた人も購入するチャンスが用意されるなど、中津川ゆかりの事柄が盛りだくさんでした。

二十五年余り継続しているOB会ですが、いまだに新制高校発足当時の卒業生がお元気に参加頂く中で、最近若手の方々も増加も増えており、その象徴とも言うべき50回生の出席を得て若返った気分がさせられます。三代に亘る年代の広さが特筆



される会になりました。今年も十一月の第二土曜日、22回生幹事で同じ場所での開催を予定しています。同窓の方々、お誘い合つてご参加下さい。

なお、東京岐阜県人会には、県立高校の立場で理事として参加し、東濃地区の同じ立場の人達との交流も進んでいます。同窓生として旧交を温め合う中で

### 平成二十五年 中津高校同窓会総会

●とき 平成二十五年五月十二日(土)

●ところ 中津川商工会議所ホール

平成二十五年同窓会総会を前回の通り開催しました。総会には約五十名のご出席をいただき、その後の懇親会には約七十名の参加をいただきました。開催に際して幹事を務めていただいた23回生、31回生の方々には深く感謝をし、お礼申し上げます。

さて、二十五年同窓会総会では各同窓会支部の詳細なる報告がなされました。関東OB会でも様々な情報交換や色々な分野でお互いに支え合う場面も展開されています。中津高校関東OB会でも検索して頂ければ、有志が作成したサイトが出てきます。こちらも参考にしながら、今年のOB会に向けて関心を寄せて頂ければ幸いです。

は年一回懇親会を毎年開き、親睦を深めている様子が報告されました。年々盛大になり、関東OB会の活躍が目まぐるしくなるとなる一方、若い世代の参加をいかに増やしていくかという課題も出されました。名古屋地区会では会員全員に案内を出し、同窓会を意識してもらおう取組をなされたそうです。関西旭陵会も歴史散歩などの活動が続けられ、組織の基盤作りがなされているとのことです。

議題としては、太陽光発電パネルの設置について、説明が主な議題となりました。一〇〇〇万円の費用で太陽光パ



総会風景 挨拶する三尾同窓会長



挨拶する早川県議 (13回生) 杉本110周年記念事業実行委員長 (20回生) 用で太陽光パ



懇親会 校歌斉唱

# 関西旭陵会

## 関西からの報告

関西旭陵会 加藤紘一 (10回生)

本会では十年ほど前から、年一回の行事を総会懇親会と歴史散策会の交互開催するという独自の運営法で継続してきています。

平成二十四年度は七月一日に大阪で総会懇親会を開催しました。会場はJR大阪駅ビル内にあるホテルグランピア大阪で、関西在住者にとっては最も集まりやすい場所であり、早急に確保することができて利用することができました。会場の窓からは開苑が進む駅裏一帯(現在ではグランフロント大阪)として新しいビル群が完成してはいますが、一望できませんでした。

らに挨拶いただき、また今回初めてでしたが出席者のみなさん全員から自己紹介と近況紹介などをしていたことなど、出席者相互に一層の交友を深めることができました。また恒例のふるさと名産の当たるピンゴ大会などでも盛り上がり、最後は校歌斉唱と、楽しいひと時を過ごすことができました。



桂わかばさんの落語高座

今回は前半に桂米朝一門の落語家桂わかばさんに出演頂き、落語一席と余興を楽しみました。関西ならではの企画であったと思います。後半は総会懇親会に移り、小川さん(29回生)の名司会で進められました。来賓の三尾会長、田中学校長先生、藤原先生

平成二十五年度は幹事の18回生今井さんのお世話で、十月二十日に歴史散策会「浪速の古代から今日を巡る」を開催しました。まず大阪歴史博物館に集合しこ



H24年度総会懇親会出席者

近く、この一帯が古の難波の宮跡地でもあることから、平成十三年NHK大阪放送局の改築に当たって、これに隣接して複合された形で建てられたものです。特に難波の宮の歴史を興味深く学ぶことができ、ここは大化の改新頃に造られた前期と、奈良時代に平城京に並んで存在した後期と二つの歴史があることを、多くの人が初めて知りました。この後、館内

のレストランで会食をし、しばしの歓談のひと時を過ごしました。午後はまだいくぶんかの雨の残る大阪城へと向かい、ここにはガイドの詳細な説明を受けながら、改めてこの地の波乱に富む歴史へ思いを馳せながら巡り、最後に天守閣へ登って、多くの歴史を超えて存在する現在の大阪市街を三百六十度のパノラマとして見渡しました。雨上がりの中の南方向に「あべのハルカス」が文字通りはるか霞んで見えました。これは間もなく完成する日本一背の高いビルです。城を背景に全員の集合写真を撮つてから、近くの船着場へと移動。ここから船に乗り、東横堀川、道頓堀川と市内の川をクルージング。川から見上げる繁華街の佇まいもまた興のあるものでした。終点の湊町まで行き、ここで下船し解散となりました。

近くに住んではいいても今回のコースはほとんどの方が初めてであり、皆さん楽しんでいただけたようです。

なお歴史散策会はこれまで奈良、兵庫、滋賀、京都、大阪と巡ってきました。あとは和歌山が残っていますが、次回からはまた改めて適当な地を選び企画ができればと思います。

当会にはホームページがあり、行事に関する計画などもこちらに掲載するようにしています。行事記録の詳細も写真とともにこの中で紹介していきますのでぜひご覧になってください。ご意見要望もぜひお寄せください。今後より一層多くの皆様に参加へのご理解とご参加をいただきたいと思います。



H25年度歴史散策会 (大阪城)

# 第20回旭陵ゴルフ大会 土岐政紀 (24回生)

中津高OBのゴルフ愛好家が集う第20回旭陵ゴルフ会が秋分の日(九月二十三日、中津川市菟子川のユージュアリー・中津川ゴルフ倶楽部で行われた。還暦を迎えた23回生が幹事役となり、1回生から41回生までの三十七組一三四人が参加。前夜の雨が上がり、絶好のコンディションの下、日ごろの練習の成果をダブルペリア方式で競い合った。

20回という節目の大会とあって賞品もぐんと充実し、若い世代を中心に初参加の人も増えた。表彰式では1回生の伊藤成章さんが「来年も頑張ってください」と乾杯のあいさつ。来賓の田中栄吉校長は「同窓会総会より多い出席者に驚いている。平成二十七年十一月には本校創立一〇〇周年の記念式典を行うので、ぜひみなさんで盛り上げてほしい」と祝辞を述べた。

成績発表では、飛び賞やニアピンの、ドラコンなどが発表されるたびに歓声が沸き起こった。優勝したのは幹事役を務めていた23回生の樋田憲彦さん。「優勝できて荣誉です。定年というもう一つの卒業を迎える年に記念になったと語った。女性は11回生の二俣信子さんが優勝し、賞品の電動アシスト自転車を手に入れた。ベスグロは男性が38回生の末松利夫さんの七十八、女性が29回生の小川里子さんの八十四だった。

最後は参加者全員で校歌を斉唱。閉会の辞は5回生の吉川光彦さんが行い、「二〇二〇年の東京五輪を見に行けるか、二十七年にはリニアに乗れるか、この地域の高齢者の関心事」と語り、笑い誘い、「リニアが来てこのゴルフ会は永遠に続け、中津高同窓会の元気の源でいてほしい」と述べると、満場の拍手が沸き起こった。



### 名古屋支部だより 第十一回 名古屋地区会を開催 講演会で知識を習得し、懇親会で憩う

名古屋地区会副会長 古井良平（7回生）

隔年に開催します名古屋地区会も、発足から二十二年になりました。今回は発足以来初めて、定時制・分校を卒業され、この名古屋地域に居住されます皆さんにも案内状を送致しました。



「健康維持に役立つビタミンの摂取」を講ずる太田講師

今回は藤田保健衛生大学客員教授、医学博士 太田好次様(17回生)の講演会を開催いたしました。

今回も盛大に一八〇名様の出席者となり、本校から三尾同窓会会長様を始め、役員様、教頭小原博文様、中津川市副市長水野賢一様、恩師水野智雄先生、高柳淑子先生、藤井信子先生にも出席を頂きました。

講演後は卒業年次別のテーブル席にて二時間の懇親会で、同級生



講師の太田先生と一緒に (16回生～19回生)



本校同窓会長さんと一緒に (12回生～15回生)

はもちろん臨席する先輩後輩や同郷との会話も弾みました。最後は同級生グループ等で記念写真そして校歌や故郷を合唱し、午後六時過ぎに名残惜しいですが二年後の再会を約束して散会となりました。

講演概要：ビタミンは、糖質、蛋白質、脂質という三大栄養素が、体内でうまく利用されるように、代謝のなかたちをしたり、体のいろいろな働きが順調に進むように調整したりする微量な栄養素(有機化合物)のことです。

定時制 平成二十五年度 第十三回 本校・分校交流会 苗木で開催

平成二十五年度の定時制本校・分校交流会が、苗木分校を幹事校として、十一月十七日(日)十一時から、料理旅館「しろやま」において開かれた。



苗木分校幹事代表 藤原康平さん、後藤長平さん、小澤敏夫さん、吉村和夫さん、林良夫さん、志津広光さんの幹事の皆様、お疲れ様でした。

### 第23回卒業生 同窓会

佐々木 義人 (23回生)

平成二十五年九月二十八日、バルティールにて、昼三時より還暦同窓会が開かれました。



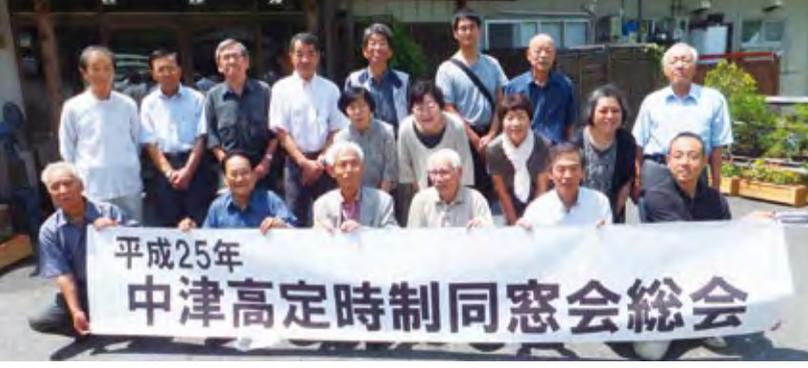
昭和三十六年三月卒業の十二回生で、中津川市内に在住する者を主にした「交流の会」を平成二十四年五月に設けました。

市岡 大平 (12回生) 「傾聴クラブ」の開催報告

この会には、名古屋や関東地区からも駆けつけてもらって同級生の交流・交歓という目的は叶えられております。

平成二十五年度定時制同窓会総会が七月二十日(土)十一時より中津川市駒場の星ヶ見荘で開かれた。

創立一〇周年記念事業の概要について報告があった後、校訓について、校歌の一節「自由と個人の尊厳」または「勤労と自治」



平成25年 中津高定時制同窓会総会

### 39回生は同窓会をきつかけに...

中津高39回生 昭和六十二年卒  
は、A・S・I組までの九クラス(総勢三五五名)。  
平成二十四年八月十一日にパル  
ティール中津川にて「中津高39回  
生同窓会」を開催しました。

卒業から二十五年、前回の合同  
同窓会から十三年。今回参加者は  
一〇八名の卒業生と四名(丹羽先  
生・宮下先生・小澤先生・安田先生)  
の恩師。

幹事は二〇名、打合せ・準備に  
四回の会合を行って、いざ本番!  
同窓会では、大いに盛り上がり二  
次会、三次会へ...

今回の同窓会を開催するきつか  
けは、SNS交流サイト「フェイス  
ブック」でした。高校を卒業して  
二十五年以上経ち連絡先がわから  
ない友達や疎遠になりつつある友  
達が増えてきた昨今、「フェイス  
ブック」で同窓生の連絡先や近況  
を知ることが出来ました。同窓生  
の近況を知ること、ネット上で  
はなく直接集まろうと誰もが考え  
ていたところ「よーし!同窓会を



開催して多くの同窓生と再会しよ  
う。フェイスブックグループを作  
ろう!と数人の飲み会で、同窓  
会開催が決まりました。発足当時

### 22回生ひとつのステージを終えて、尚!

昭和四十六年三月に卒業をし  
た若者達が、平成二十四年五月  
二十七日、総勢百十余名が、市  
内手賀野の会場に集まる事がで  
きました。

当日は、それぞれの奮闘ぶり  
や近況、あるいは四方山話等々  
に花を咲かせて、少々くたびれ  
た感漂う雰囲気など物ともせず  
に、生き生きと、洗練と、楽しく  
笑い合っことが出来たことは幸  
いでした。

又、一年半の準備期間の取り  
組みを含め、中津高校同窓会と  
しての活動や話し合いを進めて  
いく中で、胸に蘇る数々の記憶  
が笑顔と笑い声の中で確かめら  
れ、当時の願いや想いを爽やかに  
に交流でき、一体感や充実感を  
味わうことが出来たことに感謝  
しています。



参加して下さった恩師の方々  
からは、同僚の参加が少なく  
なった事や毎日の健康状態が気  
がかりだと伺いましたが、先達

### 昭和五十六年卒 第32回生 同窓会に寄せて

昭和五十六年三月に卒業した、  
私たち第32回卒業生は、誕生して  
から半世紀という節目を迎え、十  
年ぶりの学年同窓会を計画し、入  
学した三四四人に声をかけ一五二  
人の方に出席を頂きました。

初めは地元の有志が集まり、企  
画とクラス幹事の選出をし、名簿  
作成、連絡...と、半年かけて準  
備をしながら、当日を迎えました。  
校歌の大合唱に始まり、当時の懐  
かしい写真を集めて作成した『お宝  
DVD』上映では、ブルマー姿に  
悲鳴に似た歓声をあげ、ふさふさ  
の髪をなびかせてポーズをとるヤ  
ンキー姿に自虐的な笑い声をあげ  
恥ずかしエピソードの暴露や時効  
を迎えた恋バナの数々で大盛り上  
がり。カッコ良かったバンド仲間  
が、この日のために再結成し楽器  
を買って揃え家族に隠れてこっそり  
練習し、披露したロックンロール  
ナンバー。時間は容赦なく過ぎて  
いき、二次会へも一〇〇人を超え  
る参加者あり、まだまだ話し足り  
ない顔で手を振りながらの散会と  
なりました。

卒業してからの年月は、あの頃  
からは想像も出来ないほど長く曲  
がりくねった道であり、社会も環  
境も大きな変化を遂げた二十八万  
時間ですが、十五歳で出会った十八  
歳で別れた三年間が今もなおそれ

その人生に色濃く息づいている  
事に感動を覚えた同窓会でした。  
世代が変わり、中津高校の  
PTA会員であるという仲間も数  
多く、現役子育て中の  
人、孫自慢をする人  
まだまだ子作り真っ最  
中の人、本当に人生イ  
ロイロであります。

この先は自分の身体  
の心配や親の介護など、  
避けては通れないこと  
でしょう。次の同窓会  
まで十年の間が空くと  
心配だという声が多く  
聞かれたので、次回は  
五年後にしようかな  
などと、すでに計画中  
であるとかなにか。

高齢化社会を生きて  
いく私たちは、なるべ  
く長く自分のことは自  
分で出来る生活を維持  
し続け、時々こうして  
懐かしい仲間と会い、  
おんなじ話で笑い、同  
じツッコミを入れ、明  
日を生きる糧にしてい  
こうと思つのです。

家族ではないが他人  
でもない、まして恋人  
ではない「友人・知人」  
の存在がとて心地よ  
くありたいだけには幸いです。

平成二十六年一月二日、第六回目とな  
る合同クラス会を恵那峡ランドホテル  
にて開催いたしました。清水先生、山本先  
生、加藤先生、岩田先生、中田先生の御列  
席を賜り、参加者六十八名が声高らかに  
校歌を斉唱、旧交を温めました。次回  
は平成二十九年、還暦記念として開催す  
ることを予定しています。今回の様子は  
インターネットのブログにアップしてお  
ります。ご意見ご要望、また感想など右記  
へお寄せいただければ幸いです。



### 編集後記

吉村美津子 (24回生)  
平成二十六年、午年がスタートし  
ました。新年のテレビで、宝塚が今  
年は、記念すべき百周年と言う事  
で、何度か取り上げられていました。じ  
え、じえ、え、中津高校はあの宝塚  
より歴史があるのだ。」と驚きました。  
宝塚歌劇団を創設した小林一三は、  
当時世界で公演する歌劇団になる  
と想像してでしょうか?同様に中津  
高校の創設者九代目園楽衛門も現  
在の中津高校を想像していたとは思  
えません。

ところで、旭陵の編集メンバーも  
ホームページ委員会と合併し人数が  
増えました。平均年齢が下がり、取  
材力も増えました。それぞれのメン  
バーは、皆様の思いを届けるもの、知  
りたい記事は何かと会議を重ね十六  
号が完成しました。届いた「旭陵」の  
封を開けると、故郷を感じ、青春の  
思い出が懐かしく思ふものになれば  
という思いです。次回は記念号  
です。青春の思い出、懐かしい高校  
時代の思いを寄せて下さい。宜しく  
お願い致します。

旭陵同窓生の皆様こんにちは。ホー  
ムページ委員会です。  
ホームページ委員会は、私たちの母校  
である中津高校の卒業生の活躍や、関  
東、関西、名古屋など各地でのOB会の  
活動のご紹介をはじめ、懐かしい先生方  
の今、現役の活躍などをアップしてい  
たいと思つています。

皆様方には二年に一度、旭陵だよりと  
して同窓会新聞「旭陵」をお送りさせ  
ていただいております。新聞編集委員  
の方々のご努力により充実した紙面を  
楽しみにされている方々もたくさんお見  
えになると存じます。「旭陵」の過去  
の面もHPで閲覧できるようにしてお  
りますので、是非ご覧下さい。

また、小さな同窓会から大きな規模の  
同窓会告知まで、ご連絡を戴ければホー  
ムページに掲載させていただきます。シ  
ステム作りにも取り組んでいこうと考  
えています。同窓会新聞「旭陵」共々  
ご覧ければ幸いです。同窓生の  
皆様方には懐かしく、そして楽しんで頂  
けるホームページ作りを委員会一同目  
指して参ります。

- 発行 平成二十六年三月  
岐阜県立中津高等学校同窓会  
〒5080001  
中津川市津川一〇八八の二
- 編集委員  
松田幸博 (33回生)  
吉村美津子 (24回生)  
山田節子 (27回生)  
吉田真 (27回生)  
伊藤広忠 (28回生)  
野村充久 (35回生)  
尾関明美 (39回生)  
波多野大輔 (48回生)  
石原豊 (49回生)  
吉本龍司 (52回生)
- 教員  
藤原高 (23回生)  
松本詠史 (30回生)  
高橋俊和 (32回生)
- 顧問  
三尾義彦 (12回生)  
常田順子 (14回生)  
佐藤和男 (定15回生)  
編委員長 吉村美津子 (24回生)  
HP委員長 松田幸博 (33回生)  
委員 梅村薫 (12回生)  
阿部武東 (14回生)  
吉川義康 (18回生)  
阿部義康 (23回生)  
長尾浩一 (24回生)  
朝日美智子 (25回生)  
山田節子 (27回生)  
吉田真 (27回生)  
伊藤広忠 (28回生)  
野村充久 (35回生)  
尾関明美 (39回生)  
波多野大輔 (48回生)  
石原豊 (49回生)  
吉本龍司 (52回生)
- ホームページ  
http://kyokuryo.jp/  
同窓会へのお願い  
Email  
kyokuryo@vega.ocn.ne.jp  
FAX 0573-65-2721
- 関東OB会のホームページ  
http://www.2s.biglobe.ne.jp/HICUBE/nakatsu/  
関西旭陵会のホームページ  
http://www.aca.uone-net.jp/yomka/  
中津高校ホームページ  
http://school.gifu-net.ed.jp/nakatsu-hs/